事例No.	2872
公表年度	R5
団体の属性	都道府県
団体名	山口県

事例区分	行政改革

タグ	・人材確保・育成 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

地域活性型インターンシップ推進事業

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第5回）

都道府県名	山口県
事　業　名	地域活性型インターンシップ推進事業

概　要

○地域の関係機関等と連携して地域活性化に向けた取組を実施する高等学校等に経費を支援。

創設経緯等

○普通科高校を対象に、平成２４年度までは「企画・研究型インターンシップ」（地域の大学、地元の企業や自治体等と連携して、生徒の学習内容や将来の進路希望に応じた共同研究や共同開発を行う取組）を実施。

○平成２５年度は「１次産業インターンシップ」（地域の事業所、大学・研究機関、自治体等において、生徒の学習内容や将来の進路希望に応じ、６次産業を視野に入れた１次産業に関する一体的な就業体験を行う取組）を実施してきたが、地域社会と連携したより幅広い体験活動を可能とするために、両事業の要素を統合し、平成２６年度から「地域活性型インターンシップ」を実施することとなった。

○年々予算が縮小し、限られた予算の中で分配しなければならないこと。令和４年度は、９校を想定して募集したが、11 校の応募があった。圧縮して、どう配布するかが苦労した。全体 120 万円予算で、１校あたり 12 万５千円程度を見込む。

事業の特徴

○インターンシップであるため、まずは職業観の養成。そこから地域活性化に繋がっていくというのがポイントと考えている。文部科学省の学習指導要領において、「総合的な探求時間の充実」がスタートしているため、この事業を活用をしていくことにもなるかと考えている。

○事業を通じて、
・進路選択の意識が深まり。（インターンシップ）
・自分の活動が自分たちの住む地域で貢献できているという実感を体験できる。

○実践に関しては各学校に一任。県から各学校に働きかけはしていない。

○生徒だけでなく、関係者にとってもやりがいとして、地域活性化に関わっているという実感であったり、キャリア教育に資する取組みと実感するところ。

市区町村との連携等

○総じて言えば、市町との連携はない。ただし各学校と各地域の市役所において、参加内容によっては連携しているとは聞いている。

○事業が市町の地域づくりへの寄与が考えられる点として、
・市町との連携が期待されること。
・参加している各校がバラバラの取り組みで、内容もまちまちであるが、第一次産業から宇部市の SDGs まであるので、それがそれぞれ少しでも貢献できるのではないか。

受講費等
○参加者の費用負担なし。
参加者属性等
○高校１～３年生を対象。学年は絞っていない。
実施方式等
○都道府県の直営。学校が事業を実施していくことから、県はあくまでも支援という立場。 ○参加している各学校では、次年度に向けて活動のテーマや方法についての見直しを考えている。県としては効果的な形で支援できるか、支援数を想定し、ミスマッチのないよう予算計画を練っている。事業については各学校に一任している。
受講生の反応等
○受講者の反応や感想について、共通の成果発表等があるわけではないため、実績報告書から読み取る形となっている。その中で、地域社会、産学への理解が深まり、地域に対しての愛着が深まった。積極的に校外に出て行く、その様子を発信することにより、自分が地域の活性に貢献しているという実感を得た等、参加している高校に共通している感想。 ○修了生との関係維持について、 ・県として把握していない。 ・活動によっては市町と関わっていたとしても、市町との関係性・関係維持を図る取組みについては把握していない。
意義等
○地域活性化にあたる人材づくりの一環である。若い時からの意識づくりを行い、人材の裾野を広げるというイメージ。
今後の展望
○各学校の取組みが充実していってほしい。可能な限り事業を継続していきたい。
その他（募集等）
○県から各学校の校長宛てに文書で通知している。その後、希望意思のある学校から実施計画書や予算書を提出してもらい、内部で審査し、実施校を指定している。